

平成30年1月27日(土) 新春の集い・賀詞交歓会

於：ホテルグリーンタワー幕張

INDEX

新春の集い・賀詞交歓会	1
第2回経営研修会	2
臼井先生連載	2
会員企業訪問	3~4
例会委員会報告	4
スケジュール・編集後記	4



抜群の笑顔に彩られた新春の宴



1月27日(土)、ホテルグリーンタワー幕張において新年恒例の「新春の集い・賀詞交歓会」が開催された。会場は眺望抜群の20階スカイバンケットルーム。

開会前の時間を使い、紺谷会員によるウェルカム三味線の生演奏が披露され、何とも贅沢な幕開けとなった。

司会進行は親睦委員の阿佐幸雄さんと中島美香さん。阿佐さんは会の相談役でチャーターメンバー、中島さんは入会したばかりで初の司会というベテラン・新人の凸凹コンビ(?)の抜群のコンビネーションで宴は楽しく進行していった。

木下会長、臼井先生のご挨拶に続き招待者を代表し、千葉東間税会会長の山本康昭様、検見川神社宮司の宮間様よりご祝辞を頂戴した。

乾杯の発生は林直前会長。ホテルより乾杯用のシャンパンをご提供いただき、美味しい食事が始まった。

例年この時期は行事が多く、ご来賓の議員方々は代理が多いものだが、会員でもある門山宏哲衆議院議員は途中でかけつけて下さり、昨年の当選のお礼と近況報告を述べられた。

今年のメインアトラクションは穴倉親睦委員長イチ押しの日本演歌フォンレコード所属の奈良崎正明氏の歌謡ショー。歌謡ショーというより「お笑いトークショー」なのかと思うほどの軽妙軽快なトークで会場は爆笑の渦に包まれた。それでもさすがはベテラン演歌歌手、締める所はしっかり歌で締め、会が誇るのだ自慢の女性会員と代わる代わるデュエット曲を披露してくれた。とても楽しく、あっという間のショータイムだった。

また、新春の集いは1月の例会も兼ねているため、毎月恒例の誕生日・花束贈呈式も行われた。月星会は臼井先生を筆頭に1月生まれが大変多く、出席者の中から8名の該当者に花束が贈呈された。



そして、新春初夢抽選会では、臼井先生、穴倉親睦委員長、会長の木下3名の厳正な抽選のもと、30名の方に豪華景品が、外れた方にも綺麗なお花の鉢植えがもれなく全員にプレゼントされた。



最後に檀上の臼井先生を囲み「日の出の男」を全員で合唱したのち、臼井正一副会長の3本締めにて閉会となった。

会員参加者は43名、ビジター4名、招待者6名で合計53名という大勢の参加をいただいた。

今年も会員一人ひとりの抜群の笑顔で月星会はスタートしました。どうか1年間会活動にご協力のほどよろしくお願いいたします。

(月星会会長 木下英之)

誇れる郷里を子供たちに！

2月17日(出)、第2回経営研修会を館山にて行いました。当日は天候も良く、館山の鏡ヶ浦湾を左手に見ながら、NPO法人おせっ会～空き家バンクたてやま～の理事長、八代健正氏のお話を伺いました。



過疎化の進む館山を少しでも多くの方々に知ってもらい、かつ移住してもらおうという活動を、館山市からも委託されているとのこと。そして、「子供たちのために、館山を良いかたちで残してあげたい。誇れる郷里にしたい」という未来を思う熱い気持ちで日々活動をされておられるというお話でした。

同時に、副業で館山市の自然を利用したマリンスポーツ事業などを手掛けることで、館山の良さを知って楽しんでもらうという活動もされているお話もありました。ミクシーの創業者の一人から出資を受けてスタートしたという驚きの話も飛び出し、大変興味深く、有意義な時間となりました。

その後、海鮮の食事に館山城散策。当日は学んで、食べて、飲んで、歩いてと、盛りだくさんで、ご参加いただいた皆様は大変お疲れになったことと思います。



参加者は22名でした。改めてご参加いただいた皆様、ありがとうございました。
(研修委員長 早野泰広)

連載

うすい日出男の 〈こくせいふかん〉の目

五輪に魔物はいない

日本選手の活躍に拍手！

極寒と熱闘の平昌五輪冬季大会が、わが国冬季五輪史上最多となる13個のメダルを獲得して閉幕した。私も五輪報道は幾度となく見てきているはずだが、今回ほどテレビにかじり付いての五輪テレビ観戦はしたことがなかった。

そんなのにのめり込んだ理由の一つには、私自身が政治の現職から身を引いて暇になったこともあるが、一番の理由はわが日本の代表選手の活躍が素晴らしかったことによると思う。テレビ報道も選手の努力の過程をよく調べてあって、多くの心打つ物語が明らかになった。

特に私の心を打ったのは、重篤な怪我を乗り越えてメダルを獲得した選手たちだ。その物語には思わず涙せざるを得ないものがあった。

軸足捻挫の重傷を乗り越えて金メダルを獲得したフィギュア男子の羽生結弦選手、ハーフパイプで再起不能の重傷を乗り越え、前回に続いて銀メダルを獲得した平野歩夢選手のあの若さと強力な精神力にも頭が下がった。

そしてなによりも感動したのは、ノルディックスキー複合個人ノーマルヒルで惜しくも銀メダルに甘んじた渡部暁斗選手だ。練習中の事故で肋骨を骨折していながら、試合終了まで一言も漏らすことなく戦い切った、正に“これぞ日本男児”と言うべき姿だった。先頭のドイツのベテラン、エリック選手をどうして抜けないかといらしたがるが、滑走出来る状態ではなかったとわかって心から感動した。

ここまでは男子選手の話ばかりしてきたが、言うまでもなく、我々を楽しませてくれたのは、女子選手のあの金メダルラッシュの活躍だ。

スピードスケート500mで実力通りの堂々たる滑りをして金メダルを獲った小平奈緒選手、新種目のマスタードで頭脳的な快勝をして金メダルを獲得した高木菜那選手。本当にあざやかな勝利だった。

平昌五輪で日本が学んだことは、“五輪には魔物がない”ということだ。あと2年4ヶ月後に迫った東京五輪で目標としている参加国中第3位の金メダルを獲得するためには、地道な努力しかないのである。



元衆議院議員 臼井日出男

バブル崩壊、震災……逆風ものともせず!

結婚式をバネに安定経営を勝ち取る

開業後の大逆風

林昇志社主がホテル開業を決断し、千葉県企業庁の公募に応じて幕張の埋め立て地に4,800平米の土地を取得したのは1988年(昭和63年)3月である。この頃、日本はバブル経済の絶頂期で、翌年89年(平成元年)12月には日経平均株価が最高値の3万8957円を記録している。

しかし、この翌年から様相は一変する。90年(平成2年)3月の不動産融資総量規制の大蔵省通達をきっかけにバブルは崩壊し、日本経済は「失われた20年」といわれる長いデフレ経済に突入していった。

グリーンタワーが開業したのは、このバブル崩壊の直後、91年(平成3年)6月なのである。

バブル崩壊が千葉県の企業や消費者に具体的な影響を及ぼしてきたのは90年代半ばであり、開業当時はまだバブルの余韻が残っていた。林社主をはじめグリーンタワーの経営陣は危機感こそ持っていたものの、だからといって計画を変更するようなことは微塵も考えていなかった。

林威樹社長(平成18年に社長就任)は「正直、バブルが崩壊するとは思っていませんでしたし、開業直後はまだバブルが続いているような雰囲気もありました。後から考えると、厳しいスタートでした」と振り返っている。

当時、威樹社長は大学を卒業したばかりで、研修のために他のホテルに就職、89年(昭和64年)1月1日にグリーンタワーに入社して開業準備室に入っていた。

そして、入社式、竣工式、開業レセプションと予定の行事を粛々とこなし、ホテルグリーンタワーは予定通り、その年の6月25日にオープンした。

この間、千葉県の幕張新都心構想もバブル崩壊を横目で見ながら進んでいく。ホテルとしては第1号のスプリングスに続いてグリーンタワーが二番手、さらにフランス、マンハッタン、ニューオータニと大型のシティホテルが次々にオープンしていった。

ホテルのオープンだけ見れば、バブル崩壊どこ吹く風ではあるが、平成の7、8年頃になると金融機関の経営破綻が相次ぎ、さすがに人々にははっきりとバブル崩壊を実感することになる。ちなみに、社長が「社員は悪くない」と叫びながらテレビカメラの前で号泣した山一証券の経営破綻は1997年(平成9年)の出来事である。

ここまで来ると、バブル崩壊はホテルの経営にダイレクトに効いてくる。消費者の財布の紐は一転して堅くなり、警沢感のある



シティホテルの宿泊もレストランも、利用者は減少の一途をたどっていた。バブルの延長線上とは一線を画す経営戦略を考え、何か手を打たなければ生きていくのが難しい状況になったのである。

結婚式の受注で一人勝ち

手を打つといえば、バブル期では浮かばないであろうイベント企画の例がある。平成8年の6月に行った「開業5周年記念555円ランチ」である。3日間行ったのだが、利用客は合計2446名に達した。

チケットが1枚数万円になるディナーショーがバブルの象徴なら、こちらはデフレ経済の象徴といえようか。有名タレントを呼ぶディナーショーは開業した年からよく行っていたが、近年はペイするのが大変になり、積極的に企画していない。それもそうであろう。タレントに支払うギャランティが1000万円近い金額になるのだから、チケットの価格も半端じゃなくなる。まさにバブル企画だ。

威樹社長は地元の利用客を何よりも大切に考えている。人気を集めた555円ランチはその考えを具現化した企画の一つなのだろう。

もちろんシティホテルの経営としては、ランチ企画のような低価格サービスだけではやっていけない。また、グリーンタワーはホテルとしては新参者であり、ブランド力もない。ただ利用客を待っているだけでは、他のホテルにはとても勝てない。

バブル崩壊後だけに、そうしたデメリットを払拭するためにも強力な戦略が最初から必要だった。

林社主が考えたのは、結婚式である。もともとホテル経営を目指したのは、社主自身の結婚式を京成ホテルで行なったことがきっかけだった。

ホテル開業前の数年間は、結婚式場の「ちば玉姫殿」を運営し、ノウハウを蓄積していた。玉姫殿は再開発のための立ち退きを強いられたため営業を終了していたが、蓄積したノウハウをホテル経営に投入しようと、林社主はもともと考えていたのである。

結婚式・披露宴は、デフレ経済に突入してからも一定のニーズはあった。ただ、いくら「グリーンタワーで結婚式を」と宣伝しても、ホテルとして名が知られていない頃の話

ゆえ、受注活動は簡単ではない。

ところが、ここで社主の人間力が威力を発揮する。自身が寿司を握っていた頃からの常連客で住まいも近かった千葉県民共済の理事長との縁である。2人は親しい友人同士になっていたことから、当時、県民共済が展開していたブライダル事業部門と提携し、結婚式をほぼ一手に引き受けることができたのだ。威樹社長は言う。

「開業時から結婚式場として斡旋してくれたので、パブル崩壊以降は一人勝ち状態です。不況が現実になっていた平成7年には年間最高の750件の結婚式を行いました」

県民共済はその後、理事長が交替してブライダルから撤退したため750件は夢の数字になった。現在は自力で結婚式を受注しているが、年間150件程度だとか。

結婚式の受注がグリーンタワーの支えになっていたのには、もう一つ理由がある。貸衣装や美容室など、付随する部門を直営で行っていたことである。これは、林社主のご母堂、威樹社長の祖母のアドバイスだった。実際、貸衣装の利益率は高く、ホテルの安定経営に寄与している。

客室稼働率85%の安定性

さて、現在のグリーンタワーであるが、結婚式こそ以前のような景気のいい話はないものの、肝心の宿泊客はきわめて好調ようだ。

客室稼働率でいうと、年平均で85%。シティホテルの平均損益分岐点70%をはるかに超えている。勝因の一つは、毎日のようにバスでやってくるインバウンド（外国旅行者）。この客層が安定した宿泊客になっている

2003年（平成15年）に開業したグリーンタワー千葉の早期撤退（11年7月）というネガティブな話もあるが、グリーンタワー幕張は、幕張新都心に不可欠なホテルとして存在感を放っている。

振り返れば、11年（平成23年）3月の震災の時には、帰宅困難者のためにホテルを開放し、500人を受け入れたというエピソードもある。こうした愛情のある自然な対応が評判を徐々に高め、地元を中心に人気と信頼を積み上げていったのだろう。（取材・文／奥平）

例会委員会報告

2月例会 平成30年2月22日(木)

於：鮎割烹みどり

2月22日木曜日、とても寒い日でしたが会員24名とビジター1名の25名様にお集まりいただいて2月の夕食例会が行われました。

今月は茂手木会員による「あっという間の70年、生い立ちから医者・議員になるまで、またその両立の難しさ」と題してお話いただきました。医師である茂手木先生はさぞ順調な人生を歩まれて来たと思いきや人生様々、お話を伺って先生にも色々あったんだなあ、しみじみ思うことになりました。



（打ち合わせの時にお話いただいたもっと面白いことがだいぶ割愛されていたのが個人的に残念でした。）

最後に2月の誕生日会員に真田会員がおられ、御年90歳になられたとお元気に挨拶をされました。

（例会委員長 吉田光一）

3月～6月のスケジュール

3/22(木)	夕食例会 18時30分開会 鮎割烹みどり 参加費 会員3,000円 ビジター 3,500円
4/4(水)	役員会 18時00分開会 ホテル菜の花
4/7(土)	春の宴(花見) 13時30分集合 14時00分開会 場所 千葉市青葉の森公園バーベキュー場 参加費 会員3,000円 ビジター 3,500円
4/26(木)	夕食例会 18時30分開会 鮎割烹みどり 参加費 会員3,000円 ビジター 3,500円
5/2(水)	役員会 18時00分開会 ホテル菜の花
5/24(木)	夕食例会 18時30分開会 鮎割烹みどり 参加費 会員3,000円 ビジター 3,500円
6/2(土)	平成30年定時総会・懇親会 18時00分開会 会場 ホテルグリーンタワー幕張 参加費 会員 無料

街路樹のコブシが咲き始め、温かい日差しに春の訪れを感じる今日この頃。ウキウキする陽気に比例して花粉症に悩まされています。マスクと眼鏡、飲み薬に目薬、点鼻薬のフル装備で対応しているものの、くしゃみ連発＆目が痒くて大変です。戦いは5月の連休まで続きます。（永田洋子）